

国際商品市況（12/14～1/17）

2025年 1月 21日

原油	2
主任研究員 菅原 考史	
銅	2
上席主任研究員 李 雪連	
鉄鋼原料	3
上席主任研究員 李 雪連	
穀物	3
上席主任研究員 宮森 映理子	

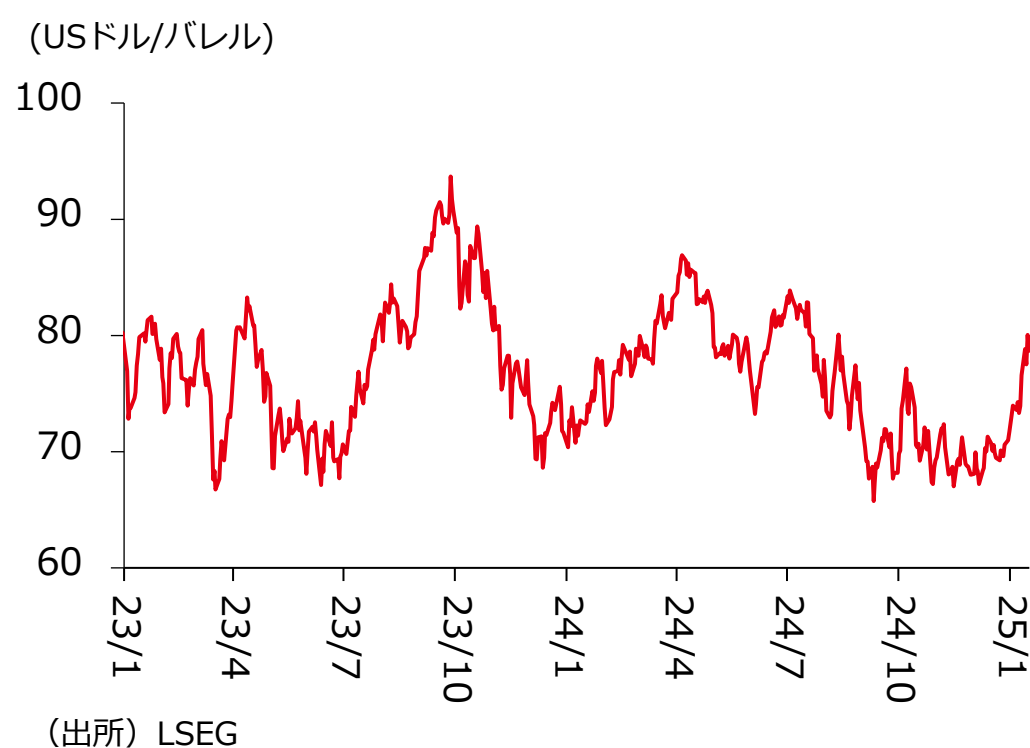
原油

主任研究員 菅原 考史

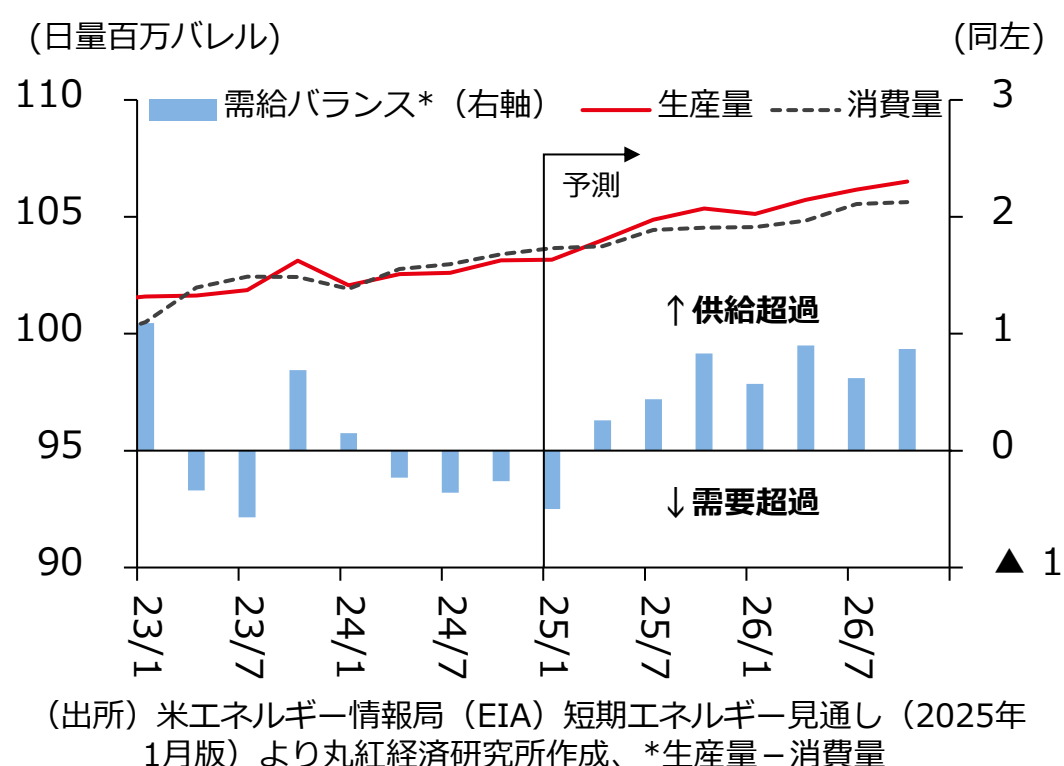
足元の動向：原油価格は70ドル近辺で推移していたが、年明けから上昇し、1月15日には5カ月ぶりの80ドル台をつけた。供給面では、10日にバイデン米政権がロシアの石油産業に対し制裁強化を発表。供給網への影響が懸念された。中東情勢については、15日にイスラエルとハマスの間で停戦合意がなされ一定の安堵感が広がった。需要面では、米国が厳寒期に入り、在庫の減少が価格を押し上げた。また、米国の物価統計を受けたドル安の進行も価格を支えた。

先行き：国際エネルギー機関（IEA）の1月の月報では、足元の対ロシア制裁強化とトランプ新政権が検討する対イラン制裁により、短期的に需給が引き締まる可能性に触れた。一方、OPECプラスは必要に応じて増産が可能な状態にあり、OPECプラス以外の国の供給も堅調に伸びている。主要機関による需給見通しでも供給超過が予想されており、足元の価格上昇は一過性とみられる。なお、ウクライナ戦争の早期終結に向けた交渉の設定など、米新政権の動向に引き続き注視が必要。

▽WTI（期近物）



▽世界の原油需給動向



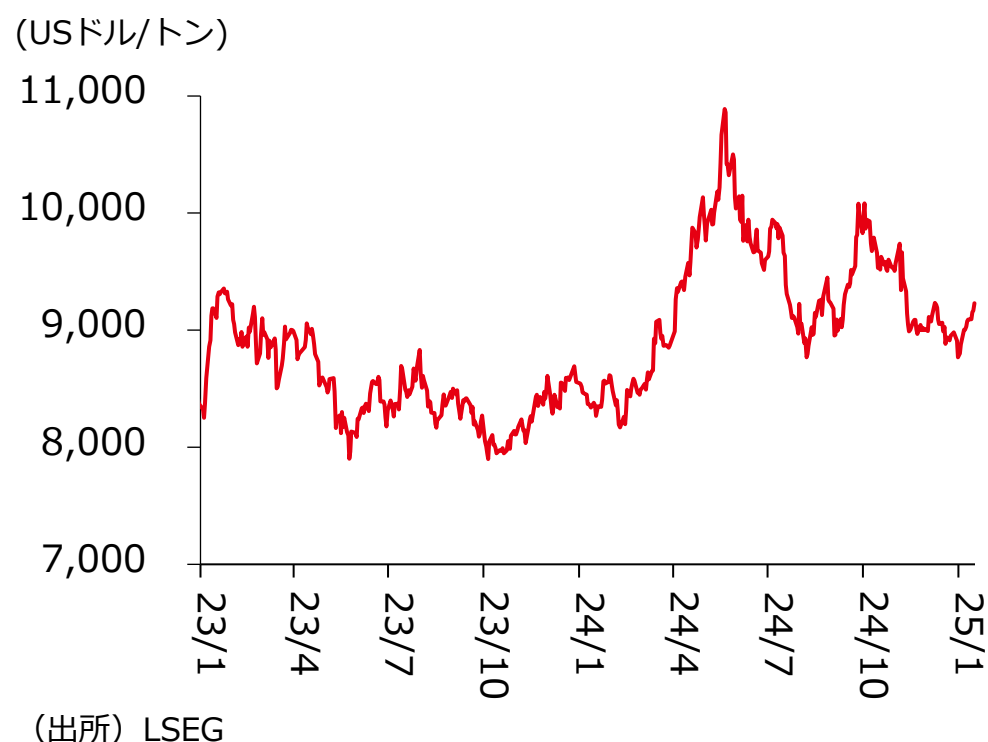
銅

上席主任研究員 李 雪連

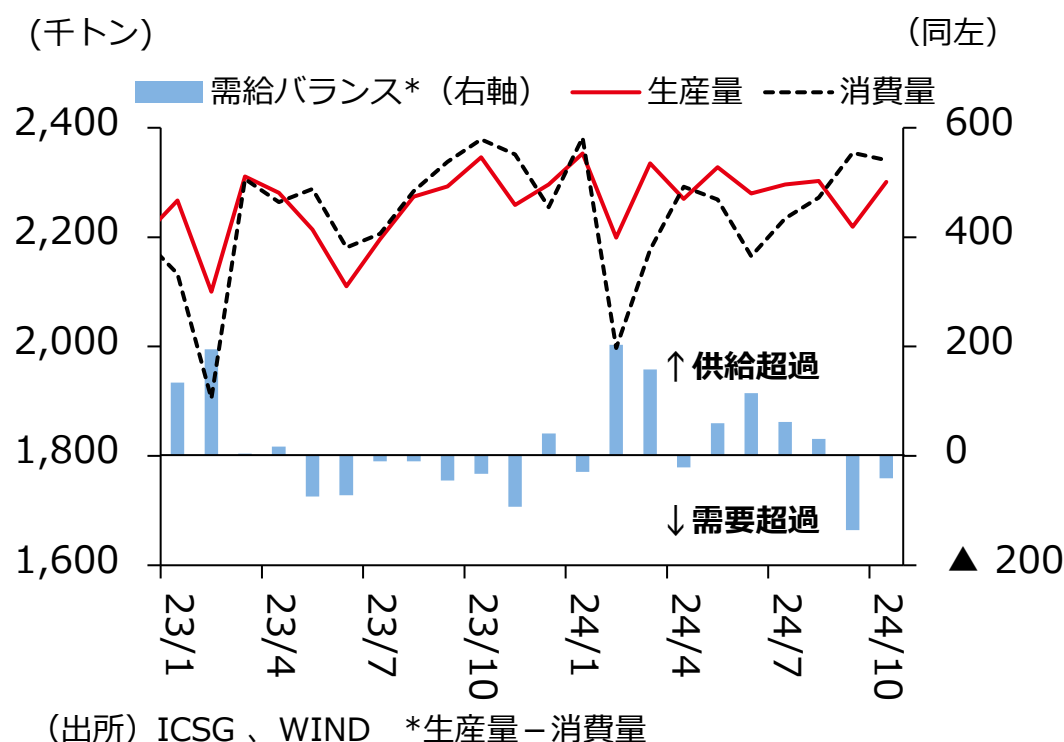
足元の動向：銅価格は需要超過やドル安などを受け9,200ドル超えに。国際銅研究グループ（ICSG）によると、10月の世界製錬銅消費量は前年比▲1.6%、生産量は同▲1.9%とそろって減少。消費量が生産量をわずかに上回り小幅な需要超過となった。足元では主要取引所の在庫量には大きな変化が見られず、およその需給の均衡を示唆。他方、米国の物価統計を受け市場で再び利下げ期待が強まり、ドル安が進行したことも価格の下支え要因に。

先行き：製錬銅の生産量は、中国やインドネシア、インドの設備増強が生産余力を高める中、鉱山生産の伸び悩みを背景に鉱石由来の増産は小幅にとどまり、スクラップ由来が全体を押し上げる見通し。消費量は、中国や欧州を中心に低調と見通されるも、エネルギー転換に伴う需要が一定の下支えに。今後は、総じて生産量が消費量を上回る供給超過を背景に価格は軟調な展開となる見込み。引き続き、低調気味な中国需要、不透明な米利下げペース、エネルギー転換の減速懸念に注視。

▽銅（LME、3カ月物）



▽世界の製錬銅需給動向



鉄鋼原料

上席主任研究員 李 雪連

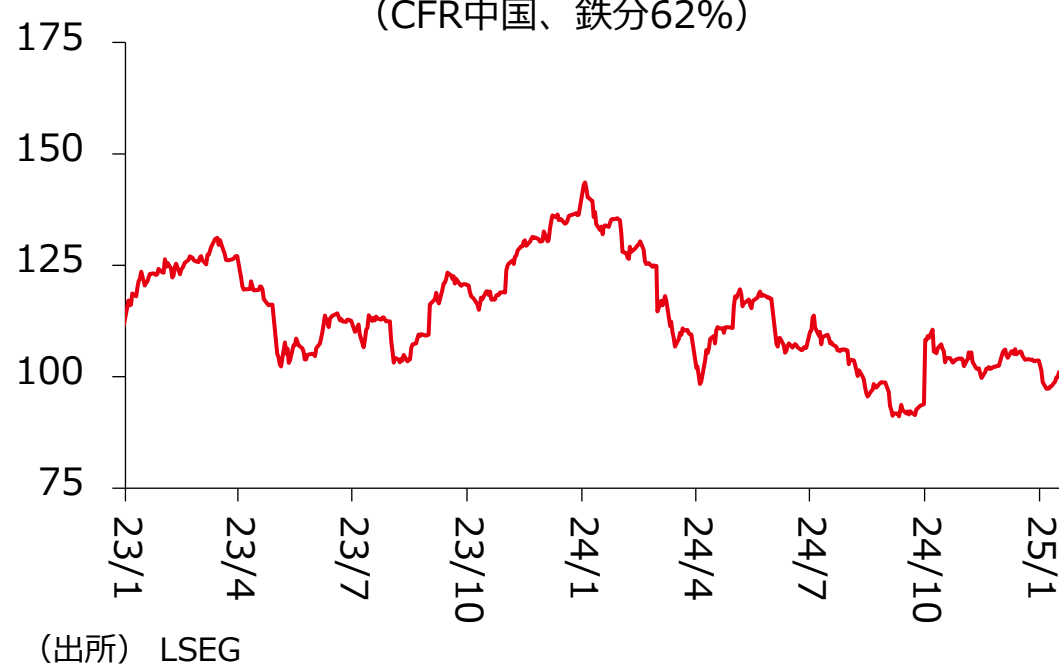
鉄鉱石：鉄鉱石価格は潤沢な出荷などを背景に100ドル付近で伸び悩んでいる。需要面では、世界の鉄鋼生産量が11月に前年比+0.8%と中国やインドにけん引され2カ月連続で拡大。供給面では、主力産地である豪州とブラジルの出荷量合計は同+4.5%と拡大し需要増をやや上回る形に。今後は、ブラジルや豪州の供給増が引き続き見込まれる一方、需要は中国を中心に低調であり、弱含みの展開が予想される。主な変動要因は、中国の景気刺激策や粗鋼生産抑制策、米新政権の追加関税など。

原料炭：豪州炭価格は需要と供給の増加がおおむね均衡していることを背景に200ドル付近の横ばい圏にとどまった。需要面では、豪州炭の主力輸出先であるインドをはじめ世界の鉄鋼生産量の拡大が市況の下支え要因に。供給面では、主力産地である豪州クイーンズランド州からの石炭輸出量が11月に前年比+3.8%と増加するなど、潤沢な供給が続いている。今後は、豪州炭の需要、供給とも大きな不安定要因が見込みにくいため、引き続き横ばいのレンジ相場が見込まれる。

▽鉄鉱石（SGX、期近物）

(USドル/トン)

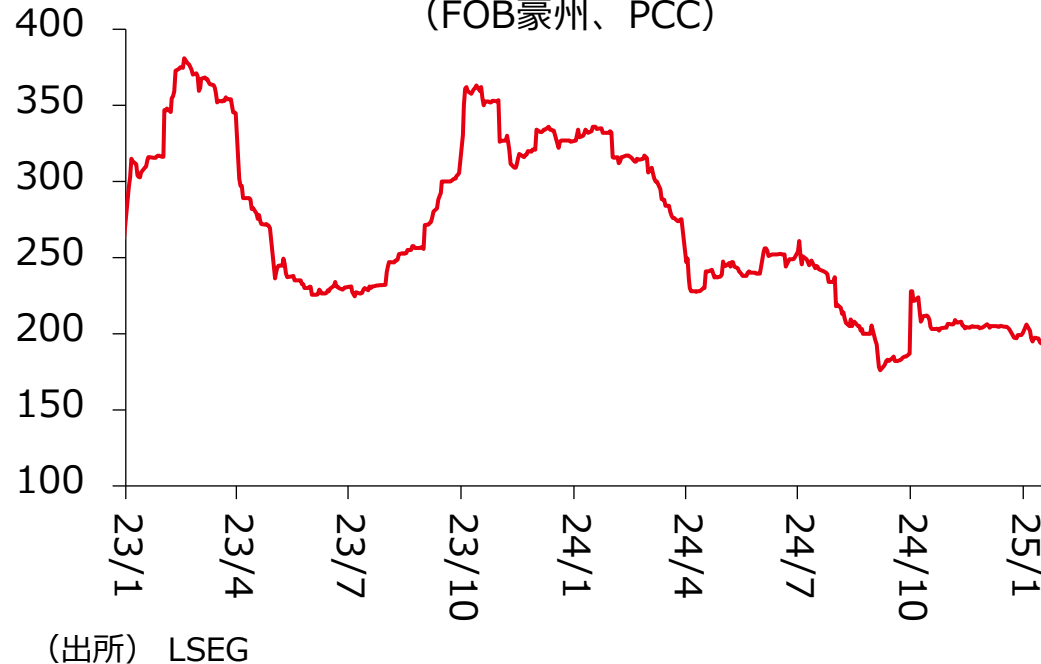
(CFR中国、鉄分62%)



▽原料炭（SGX、期近物）

(USドル/トン)

(FOB豪州、PCC)



穀物

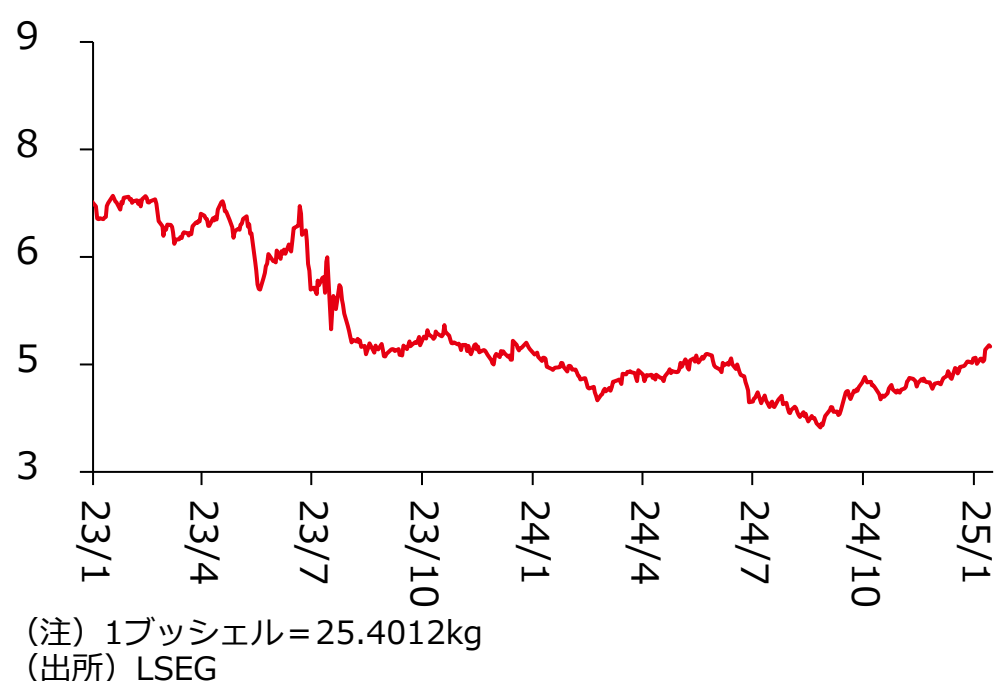
日本機械輸出組合出向 宮森 映理子

トウモロコシ：トウモロコシ価格は4.7ドル台に上昇。米農務省が1月の月報で米国産の2024/25年度の生産量見通しと期末在庫見通しを前月から大幅に下方修正したことが要因。世界の期末在庫も同様に減少見通し。また、12月下旬に発生したラニーニャ現象の影響によるアルゼンチンでの高温乾燥に伴う作柄悪化懸念も買いを支えた。今後は、需給引き締め方向のため価格は支持されよう。ラニーニャ現象による南米生産量見通しへの影響や、低調気味な中国の米国産輸入動向に注目。

大豆：大豆価格は10ドル半ばまで大きく上昇した。背景には、米国産の24/25年度の生産量見通しが前月から大きく引き下げられ、それに伴い期末在庫見通しも大幅に下方修正されたことがある。世界的にも、期末在庫見通しは引き下げられた。アルゼンチンでの高温乾燥に伴う作柄悪化も買い材料視された。今後は、弱いながらも春先まで続くと思われるラニーニャ現象に伴う南米の高温乾燥が収量に与える影響と米国新政権下での米国産輸出動向を睨みつつ、もみ合う展開が予想される。

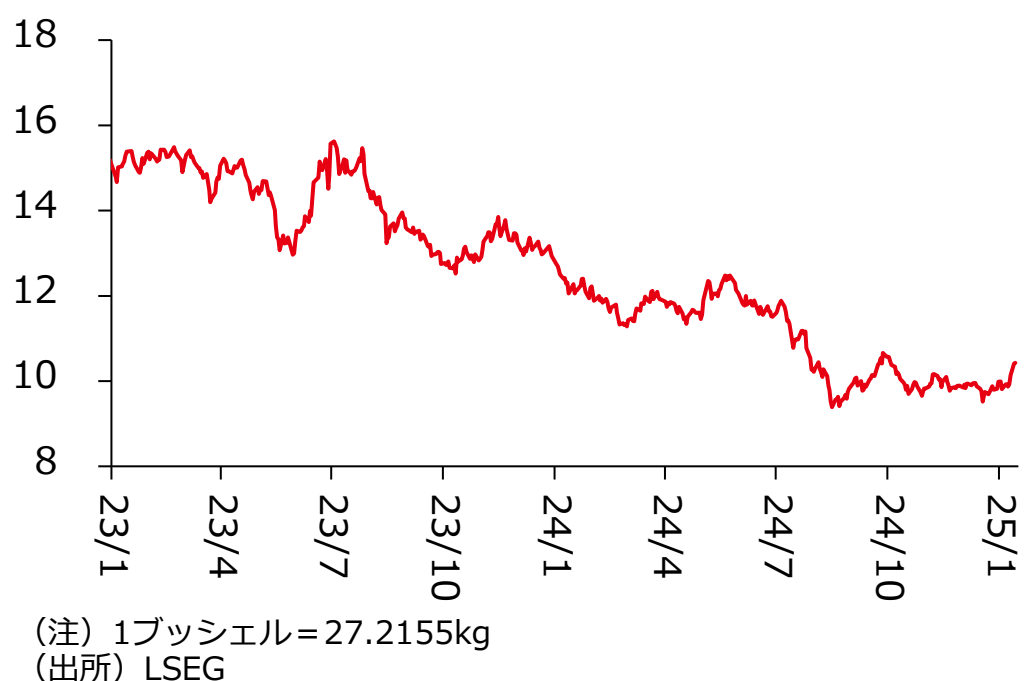
▽トウモロコシ（CBOT、期近物）

(USドル/ブッシェル)



▽大豆（CBOT、期近物）

(USドル/ブッシェル)



(執筆者プロフィール)

菅原 考史 (Takashi Sugawara)

SUGAWARA-TAKASHI@marubeni.com

主任研究員

研究分野：東南アジア、デジタル経済、コモディティ

2018年、シンガポールの日系コンサルティング会社にて市場調査の経験。2019～21年、在シンガポール日本国大使館専門調査員として星内外政およびASEAN情勢の分析に従事。2022年から丸紅経済研究所にて新興国情勢や商品市況などを担当。筑波大学人文・文化学群比較文化学類卒業、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻修士号取得退学。

李 雪連 (Xuelian Li)

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国、産業、商品市況

IT企業勤務を経て2005年から丸紅経済研究所で主に中国、産業、商品市況をリサーチ。講演や講義、取材、寄稿なども行う。2013～15年米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。

宮森映理子 (Eriko Miyamori)

MIYAMORI-E@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：サステナビリティ・ESG、LCA、電力・エネルギー、生物資源

金融機関系シンクタンクに入社後、環境・エネルギー関連の調査・コンサルティング業務に従事。スマートグリッドや再生可能エネルギー、バイオマス利活用に関する政策・市場・技術動向の分析を担当。大手小売SPAを経て、2019年から丸紅経済研究所にて、サステナビリティ・ESGに関する調査分析と社内支援に従事。ライフサイクルアセスメント（LCA）分析等の定量分析を多く担当。東京大学農学生命科学研究科修了（農学修士）。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- ・本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- ・本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。